

清流 ニュース

発行所
八王子市子安町 1-22-25
清流寺
清流ニュース編集室
電話 (042) 646-0287 (代)
FAX (042) 644-1164
http://seiryuji.jp/org/

令和四年度総祈願
本年度教化誓願達成・学徒一名増加
日堯上人五ヶ年報恩御奉公・寺内境修復御有志奉納成就
人と未来を繋げる御奉公推進之御願
積極的御法門聴聞励まし声かけ助行・御利益感得口唱実践

画期的な取り組みがなされ意義のあるセレモニーとたいへん好評でした。また、当日は日堯上人

とご縁の深い、局御導師でしたので日堯上人の祭壇を設置しお焼香もしていただきました。

八月の御総講日

| | |
|----------|------------|
| 一日 十時 | 御修行日 |
| 七日 十時 | ハースデー総講 |
| 十三日 十時 | 高祖御命日 |
| 十七日 十時 | 開導御命日 |
| 廿五日 十時 | 門祖御命日 |
| 十二日 十時 | 於 清流寺 |
| 十六日 十時 | 高祖御速夜 |
| 廿四日 十時 | 開導御速夜 |
| 三十日 十時 | 門祖御速夜 |
| 於 羽村別院 | 歡尊御命日 |
| 会議 | |
| 一日 御総講後 | 役中会議 |
| 十三日 午後一時 | 参事会 |
| 廿五日 御総講後 | ブロック長 教区会議 |

七月二十四日

御正當会式

無事奉修の御礼



力強くご唱導される局日遙導師

七月二十四日、十時三十分より、本年度の御正當会式が無事に奉修されました。

香風寺御高職・局日遙導師の力強いご唱導の下、参詣者ともどもよいお看経をさせて頂きました。

今回は、はじめての試みとして、開式前に、奉修御導師のご紹介がビデオで映写されるという、



清秀寺三世長福寺四世佛立寺第六世
権大僧正 信華院 日苑上人ご遷化

権大僧正・信華院日苑上人におかれましては、去る六月二十八日、法寿九十歳を以てご遷化あそばされました。日苑上人は、当山とたいへんご縁が深く、初代住職日序上人を第二の師匠と仰ぎ、日序上人ご遷化後は、毎月、廿四日のご命日頃には、必ず、墓参をされるという、誠に教務としての師匠仕えの鑑とも言えるお給仕のお手本をお示しいただき、又、当山の三祖会には数々のご奉納をいただきました。日苑上人のご葬儀は、七月三日、仮通夜を、信澄寺ご閑土・

林日煌御化主、本通夜を乗泉寺門末信廣会幹事長・第五宗務支庁長・廣全寺御高職柏日胤導師、ご本葬儀を大本寺乗泉寺御高職・宗務副総長永江日盡上人執行導師のご唱導を以てしめやかに執行されました。清流寺は、ここにご生前中のご教導を謹んで深謝申し上げます。なお、七月三日の仮通夜には当山住職と、由里子大奥様も参詣されました。

八月朝参詣強調週間
八月二日～六日
第六、第七、第八、第九ブロック
海外地区

八月の朝参詣強調週間は、第六ブロック (小平教区) 第七ブロック (東村山教区) 第八ブロック (昭島教区) 第九ブロック (西多摩教区) QLD組 (オーストラリア教区) の各ブロック、教区が担当となります。

| | |
|----------|------------|
| 八月二日 (火) | 小平教区 |
| 三日 (水) | 東村山教区 |
| 四日 (木) | 昭島教区 |
| 五日 (金) | 祈願助行 |
| 六日 (土) | 西多摩教区 QLD組 |



同帰亭要語録

懈怠をつゝしむ

此等の禁しめを背く重罪は、目に見えざれども、積りて地獄に墮つる事、譬へば寒熱の姿、形もなく、眼には見えざれども冬は寒来りて、草木人畜をせめ、夏は熱来りて、人畜熱せしむるが如くなるべし。(松野殿返事)

「此等の禁しめ」というのは懈怠の念を起してはならぬと

「身命但惜無上道」と説かれてあります。御弘通という人を助ける為には、自分の生命さえ惜しくないという御信心になれば、そこに成仏があり、そういう御信心に御利益があるというので、「懈怠の念をおこしてはならぬ」と示されるのであります。

「信徒の中の謗法は懈怠なり。懈怠を責め合ふを当講繁

栄の基本となす。いかに御法門を知りたりとて、懈怠を責めぬ人は悪人也。御弘通を思はぬ人也。其懈怠は友によりて起ることあり。我心より起ることあり。欲の深きと、信心に勝つ故に、此人は御弘通の思ひなく、迷ひ第一とする人なり。責むべし。(開化十)と、御指南下されてあり、御信心に油断があると、先づ、自分の信心が怠り勝ちになり、更に、他の謗法、懈怠をみても折伏をしないよう

なるというので、日頃の御信心は懈怠なく、ということとを信条としてつとめなければなりません。寒くなつて霜が降りたナ」と思っているうちに、たちまち堅い氷の張るような厳しい寒さがやってくるのも事実です。一期ナスグルコト程ナシで、うっかり油断しているとズルズル懈怠して、取り返えしのつかない事になるという事を考えて、ゆるみなく精進させて頂くことが、肝心です。